

Structure Kansai No.26 90.2

新年を迎えて



撮影時期：平成元年01月「会場建設工事中」
 写真提供：財団法人「国際花と緑の博覧会協会」



久徳 敏治

いよいよ'90年代に突入いたしました。今迄はとかく法人化に力を注いできましたが、今後の10年は本格的な活動をもとに、磐石の礎を築くべき正念場を迎えております。今年6月に開催されるテクノフェアはその第一歩となるのでしょうか。90年に入り、予期しえなかった様変わりが囁かれております。戦後、豊かさを求めて、がむしゃらに努力してきた結果は、物こそ豊かになったとはいえ、その歪も増幅されております。技術の面でも、合理主義的な面が強調されすぎたきらいがあります。もっとゆとりを、合理主義を超越した姿勢が問われております。テクノロジー万能におぼれかねない現在の技術者に対して、哲学なきテクノロジーの結末を予測する努力が求められているのではないのでしょうか。このためにも構造協が率先して新しい技術論を展開することが迫られていると確信いたしております。会員各位の反応を期待いたしております。(関西支部長)



青柳 司

明けましてお目出度う御座居ます。今年には社団法人になっての初めての年で6月6日から11日まで、6日間にわたって「テクノフェア」が新宿NSビルで開催されます。このイベントは建築構造を一般の人達に知ってもらうためのもので、今後数十年は開けないような当会にとっては最大の行事です。無理をしても参加しようではありませんか。(総会・JSCA大会・懇親会も6日に開きます。)一方、支部としてのアンケートも近々集計がまとまるようです。皆様の要望にできるだけ答えられるような運営ができればと思っています。ところで、最近の建設投資は狂氣的で、会員の皆様も日々の多忙さに振り廻されて居られることと思います。でも、今が日本建築構造技術者協会にとって最も大切な時期でもあります。時間がほしい方達ばかりですが、技術委員会及び同分科会を初めとして各事業にも積極的に御参加下さるようにお願い致します。(関西副支部長)



能勢 善樹

カネのことを口にするのは、古来、日本人にとって卑しいとされてきたことでした。それが、カネをマネーと呼び変えたとたん、新聞やテレビまでが一億総マネーゲーム化のお先棒を努める有様です。当然の帰結として、大学理工系卒業生の産業別就職動向によると、金融・保険・不動産の比率は86年の10%から88年には26%に急増しました。しかし、80年代の日本の繁栄をもたらしたのは、優秀な技術者たちの汗の結晶としてのモノ作りが土台にあったことは明らかです。モノ作りが軽んぜられ、投機と投資が賢い人のすることであって、建築は土地に付加価値をつけるためのツワモノになり下がってしまいつつある状況です。ふくらし粉でせい一杯膨らんだカルメラ焼きが、みるみるうちに萎むように、このようなことが永劫に続く筈はないと考えるのは私だけなのでしょうか。「満つれば欠くる世の習い」としきりに思われる90年代初頭であります。(関西副支部長)

JSCA関西 海外研修会報告

(社)日本建築構造技術者協会関西支部では、'88年に韓国への海外研修、引続き'89年も京都大学金多教授を団長とし、会員・賛助会員、総勢25名の参加を得て、マレーシア・シンガポールを訪問、両国のエンジニア団体との技術懇談および最近の建物の見学を行い交流・認識を深めたので以下に研修概要および会員諸君の印象を報告致します。

スケジュール

| 日次 | 月日曜 | 発着/滞在地名 | 現地時刻 | 交通機関 | 摘要 | 食事 |
|----|-------------------|--|----------------------------------|------------------------|---|---------------|
| 1 | 平成元年 10月30日(月) | 大阪発 シンガポール着 シンガポール発 クアラルンプール着 | 12:30 18:10 19:45 20:35 | JL-713 SQ-114 | 空路、シンガポール経由 クアラルンプールへ | 機: 夕 |
| 2 | 10月31日(火) | クアラルンプール滞 | 午前 午後 | 専用バス | 《クアラルンプール泊》 現地セミナー、懇談会 (通訳同席・於：ホテル会議室) 合同昼食会 クアラルンプール建築現状視察 《クアラルンプール泊》 | 朝: 昼: 夕 |
| 3 | 11月1日(水) | クアラルンプール滞 クアラルンプール発 シンガポール着 | 午前 13:15 14:05 | 専用バス SQ-109 専用バス | クアラルンプール市内視察 空路、シンガポールへ 着後、ホテルへ 現地セミナー・懇談会 (17:00~19:00、通訳同席、 於：ホテル会議室) 合同夕食会 | 朝: 昼: 夕 |
| 4 | 11月2日(木) | シンガポール滞 | 午前 午後 | 専用バス | シンガポール建築現状視察 自由研修 《シンガポール泊》 | 朝: 昼: 夕 |
| 5 | 11月3日(金) | シンガポール滞 シンガポール発 | 午前 午後 00:30 | 専用バス JL-714 | シンガポール市内視察 自由研修 空路、帰国の途へ 《機内泊》 | 朝: 昼: 夕 |
| 6 | 11月4日(土) | 大阪着 | 07:20 | | | |

団構成

| 団長 | 金多 潔 | 京都大学 |
|-------|---------------|------|
| 真塚 達夫 | 東畑建築事務所 | |
| 榎本 清一 | ㈱長谷工コーポレーション | |
| 平井 繁一 | 関西製鋼株式会社 | |
| 磯野 義人 | 太陽工業㈱ | |
| 藤原 君夫 | ㈱昭和設計 | |
| 俣野 博 | ㈱竹中工務店大阪本店 | |
| 川村 佳則 | ㈱川村建築構造 | |
| 遠山 隆雄 | 日本鉄鋼株式会社 | |
| 川村 紘一 | 久保田鉄工㈱ | |
| 齊藤長太郎 | ㈱東京ソイリスサーチ | |
| 板垣 勝善 | ㈱大林組 | |
| 北風 幸祥 | 北風建築構造研究所 | |
| 丸岡 義臣 | ㈱竹中工務店大阪本店 | |
| 成瀬 恵子 | ㈱川崎建築構造研究所 | |
| 近藤 正広 | オリエンタルコンクリート㈱ | |
| 木原 求 | ㈱中山製鋼所 | |
| 高森 文雄 | ユニオンシステム株式会社 | |
| 藤田 忠正 | 片山鉄工所 | |
| 藤田 忠久 | ユニオンシステム株式会社 | |
| 藤原 俊夫 | 太陽工業株式会社 | |
| 半田 健二 | 日本コンクリート工業㈱ | |
| 西田 理 | ㈱日建設計 | |
| 村上 統一 | 電気化学工業㈱ | |
| 田中 利幸 | 竹中工務店 | |

交流会の議事録

1. JSCA・IEM & ACEM交流会

- 日時 1989年10月31日
- 場所 KUALA LUMPUR HILTON HOTEL PADOCK ROOM(30F)
- 出席者
 - 1) Ir. Dr. Bararuddin Bin Ali - IEM副会長、マラヤ大学助教授
 - 2) Ir. Dr. Ow Chee Sheng - 工科専門学校の先生
 - 3) Dr. Wong Chin Chaw - 構造コンサルタント
 - 4) Mr. Sawudin Sairaw - エネルギー省
 - 5) Mr. Leong Saik Onn - コンサルタント
 - 6) Ir. Dr. Ooi Heong Beug
 - 7) Dr. Wan Mahmood - 工科専門学校の先生
 - 8) 他2名
- 議事内容
 - 1) IEMの概略説明 メンバーは約400名、
 - 2) ACEMの概略説明 メンバーは約250名、
 - 3) JSCAの概略説明
 - 4) 記念品の交換
 - 5) 組織及び適用法規に関する説明
建築法は1984年改定、申請は建築士法及び技術者法により認められた人により行う(建築士2000人、技術者法16000人内 6000人が政府公認内2500人~3000人が申請の資格あり)、防災についてはM/Eの技術者のみ申請)、主に使用している基準(コンクリート-BS、防災-BS、アメリカ基準、鉄骨-BS449)
 - 6) 討論
 - ・風に対する考慮の方法----B.SのCP3による
 - ・地震 " ----最近規定を盛り込もうとしている
 - ・S、SRC、RCの比率----殆ど100%RC、Sは3件
 - ・マレーシアにおけるスパン--8~12m(普通)20~30m(長スパン)
 - ・日本の輸入資材は-----日本は製品は日本製
石、ガラス、木材は輸入

- 4) Engr Teh Hee Seang - Chairman (C&S Engrg Division)
- 5) Engr Chen Hao - Alternate Chairman (C&S Engrg Division)
- 6) Engr Lee Bay Tseng - Council member
- 7) Engr Tan Ee Ping - Past Chairman (C&S Engrg Division)
- 8) Engr John Sanderson - member of C&S Technical Committee
- 9) Engr Dr Kok Yue Choong - member of C&S Technical Committee
- 10) Engr Lim Hon Chee - member of C&S Technical Committee
- 11) Engr Dr Parmar - Fellow member of IES

- 議事内容
 - 1) IESの概略説明
1969年設立、メンバーは2707名、21人委員会、18の委員会、人員構成 -S41%、E25%、M29%、その他5%
 - 2) JSCAの "
 - 3) 記念品の交換
 - 4) 組織及び適用法規に関する説明
都市開発、消防、保健、下水、道路、排水、工場検査、港湾に提出、1989年新規則となる(工事着工許可なしの着工は罰金、構造のチェックはダブルチェック (check engineerが必要)、5~10年以上の古い高層建物はprofessional engineerのチェック必要)、check engineerはprofessional engineer10年の経験必要、
 - 5) シンガポールにおける主なる構造物(建物、橋、道路)の説明
チャーターバンクビル(地下30m、ケーソン工法)、MASビル、トレジャリービル、OUBビル(90mの杭)、ティンセンター(フラットスラブ、7~8日/フロア)、ゲートウエービル、ジャングリラホテル(リングブリッジ構造)、リージェントホテル、OCBCビル(26mのRC梁)、メリディアンホテル(吹き抜け)、グラスターホテル(早強セメント、3.5日/フロア)、集合住宅(ポストテンションPC構造が多い)、チャンギ空港のハイウエーブリッジ、トラベリング工法による道路、140mスパンの橋、地下鉄、チャンギ空港の管制塔(リフティング工法、12.5mのカンチレバー梁、地上組立により1/3の工期)、SINハンガー、
 - 6) 討論
プレストレスコンクリート構造はいつからか --- 1972年より、プレストレスコンクリート構造のスパンは --- 18~20m(倉庫)45~50m(4階程度)、S造は --- 比較的少ない、骨材について --- 山砂使用、インドネシアとマレーシアよりのものは洗い使用、アルカリ骨材は使わない、

海外研修報告 (1)

西田 理(日建設計)

正直言って息ぬき半分どころか7~8割が息ぬき気分でのんびり見物するつもりで行って来た私に、原稿の依頼が何の前ふれもなく唐突に舞い込んで来たことは、正に天罰であった。初めは途方にくれていたが、今回の研修旅行の見聞をもう一度資料を調べ直してまとめておくことは意味のあることだと考え、気を取り直してつたない文章を並べることになった。うろおぼえの所もあり、思い違いの所も多々あると思われるが、ご容赦下さい。

1) 現地技術者との交流

今回の研修旅行の目的は、マレーシアとシンガポールの技術者と我がJSCAの交流を計ると同時に、現地での建物の現状を視察することであったと思う。

現地技術者との交流は、両地とも宿泊したホテルの会議室で行われ、お互いの組織の説明と設計の手続きの概略の説明をした後、質疑を行った。

マレーシアはIEM (Institution of Engineers Malaysia) と ACEM (Association of Consulting Engineers Malaysia) の2つの組織があるようだが、メンバーの人数はそれぞれ400人と250人ということで、役人・学校の先生・コンサル等かなり選ばれた人の集まりのようである。しかも建築に限らず、土木、機械、電気、石油等の技術者も含んでいるそうである。要するにあらゆる分野での指導的技術者の集まりのようである。

シンガポールは同じような名前でも IES (Institution of Engineers Singapore) だが、やはり電気や機械の技術者を含んでいる。しかしメンバー数は2700人でその内約40%が土木・建築の構造技術者だそう。飛行機や船の設計に関係する人も含んでいるらしい。

設計基準はどちらの国も旧英連邦であったことからBSであり、設計者の資格制度もあるし、確認申請の制度も日本とは少し違うようだがちゃんとあるそうである。

高層建物はどちらの国も結構多いのだが、ほとんど100%RC造であり、S造の超高層はクアラランブールで3件、シンガ

ポールで4件にしか過ぎない。これは鉄骨がすべて輸入するしかないのがコスト高になることによるのだが、地震がなく風圧が小さいことも理由のひとつだと思う。風圧が小さいと言っても超高層では風洞実験もやっているし、最近人間の感覚では感じられない地震があることがわかって来て耐震規定を盛り込もうとしているようだ。これはどちらの国でも話題として出ていたことを見ると、両国で共同して研究しているのだと思う。

因みにマレーシアはマレー人が60%で、以下中国人、インド人から成り、シンガポールはすべてシンガポール人らしいが、中国系が77%で以下マレー系、インド系、白人という構成である。マレー人はイスラム教徒である。

2) クアラランブール

到着した翌朝、窓のカーテンをあけた時緑濃い大きな競馬場と、その向こうにそびえる超高層が透明な澄んだ空気の中を伝って目に飛び込んで来た。クアラランブールは19世紀後半に入って錫採掘場への物資供給基地として形成され始め、都市計画なしに発展して出来上がった内陸都市であり、現在の人口は100万人である。

クアラランブールで見た建物は、ダヤブミビルとPNBビルとLOT10の3ヶ所である。

ダヤブミビルは外からそのイスラム的モザイク模様の外壁を眺めただけであるが、資料によれば地下2階、地上36階、高さ146mで低層棟も含め延床面積15万㎡の建物であり、1984年に完成したマレーシア最初の鉄骨造超高層建物である。設計は現地であり、原案はRC造で工期44ヶ月であったが、施主の政府都市開発局UDAの工期短縮の要望から、竹中、熊谷が鉄骨に変更して26ヶ月で完成させたといういわく付きの建物である。鉄骨は11,000t、加工は日本の5ヶ所のファブで行われた。

PNBビルは、ホテルの窓から競馬場の向こうに見えていた建物であるが、資料がないので詳しいことはわからないが、事務所ビルであり清水建設が施工してい

るようだ。たまたま施工中の写真が手元にあるが、これが第2の鉄骨造高層建物らしい。外観は何の変哲もない長方形の建物である。その隣に建っている建物の方が形としては印象的であり、鼓のような中間がくびれた円筒形となっている。足元の広がった部分がアーチ状になっており、中心部に傾いた壁状の柱となっている。イスラムの宗教建築というような説明を聞いたように思う。

LOT10は、現在建設中のショッピングセンターであり、設計は現地で施工が清水建設であり、RC造7階建て、上部3層が駐車場となっており、キーテナントは伊勢丹である。延床6万㎡で工期24ヶ月、工費は20万円/坪だそう。現場内を案内してもらったが、大梁以外はワッフルスラブで柱は梁下で打継いでいる。壁は階段まわりのみRC造で、他はレンガ積みである。モルタルに番線を植え込んだスパーサーを現場で作っていた。コンクリートのテストピースはサイコロ状の立方体である。クアラランブールの地質は、沖縄のように石灰岩で空洞のある部分があり、杭長60mが普通だがここでは30mで場所打杭で施工したそう。

3) シンガポール

シンガポールは、19世紀の初め頃イギリス植民地総督府の補佐官としてペナン島に赴任して来たラッフルズにより、交易都市として計画され造られた都市である。過密都市というイメージを持っていたが、意外に緑の多いヨーロッパ的雰囲気を持った街である。

シンガポールで見た建物は高層建物3件と大空間建物2件に2分できる。前者の代表がOUBビルである。地下4階、地上63階、塔屋2階、高さ280m、延床面積10万㎡の鉄骨造の銀行の本社ビルで、現在はどうかかわらないが建設当時の1986年では北米以外で最高の建物であった。非常にスレンダーな建物で、高さとの比は8近い。設計は丹下事務所、構造設計はオーストラリアとシンガポール、施工は鹿島、間、日本国土開発のJV、鉄骨は日本鋼管という顔ぶれである。

この建物は48階までは長方形、49階以

上はその半分を斜めに切り取った二等辺直角三角形の平面形状を持っているが、基本的にはチューブ構造であり、長方形の階では20m×40mの無柱空間を実現している。この外周フレームは13階ごとの階高7.8mの機械室をブレース階とし、コア部のブレース柱とともに大架溝を形成しているが、各階にせん断柱を設けることにより、さらに水平剛性を上げている。また、コア部のブレースで組んだ柱には、スタッドによりRC耐震壁も設け、さらに剛性アップを計っている。塑性まで考えなければ、有効な方法だと思われる。

低層部は6階建てで高層部に接しているが、エキスパンションで構造的に縁を切っている。低層部はH鋼の杭で支持しているが、高層部は直径5～6mのケーソンにより実にGL-96～110mの岩盤に支持させている。

建物のパラペット天のゴンドラレールの上まで登らせてもらったが、航空写真のようなアングルでまわりが眺められた。それにしてもほとんど風らしい風を感じなかった。

MASビルは財務局の建物だが、シンガポール最初の鉄骨造超高層である。地下

1階、地上32階で高さ137m。Ove Arupで構造設計していたものを日本鋼管が鉄骨に変更したらしい。ボックス柱で梁はウェブ高カボルト、フランジ現場溶接で純ラーメン構造というオーソドックスな構造である。日本のデッキは下の突出部が小さいが、ここでは逆にリブが上に出ているようなデッキが使われていたが、これは下のへこみをインサート替りに使うためだそう。

高層建物の3つ目はゲートウェイビル。I.M.ペイの設計で、構造設計をIESの副会長がしたということで完成間近の現場を見せてもらった。全く同じ平行四辺形の建物を対称に並べたツインビルで、37階建て1フロアそれぞれ約1000㎡で延床面積7万㎡のRC造建物である。構造図を見せてもらったが、柱は低層階で鉄骨を入れている。全く軸力のためだけであり、継手はメタルタッチでずれ止めの添え板を隅肉溶接で留めているだけであった。梁はプレストレスで、これはシンガポールでは良く使う構造らしい。

大空間建物のひとつはチャンギ空港にあるシンガポール航空の格納庫である。ジャンボ3機が入られる内法220m×

90m内法高さ33mの世界最大の大きさであり、周囲三辺は巾30mのRCの事務所がコの字型に囲んでいる。屋根梁はパイプトラスの斜め格子とし、出入口はスパン220mのトラス梁が支持している。鉄骨重量は3000t (150kg/㎡) であり、建設当時の1979年には一度に運べるクレーン船がなかったため4つに分割してバージで運び地組みした後リフトアップされた。

大空間の2つ目はインドアスタジアムである。設計丹下事務所、構造川口衛、織本匠、施工は確か韓国だったと思う。現在建設中でほとんど完成に近い。長辺200m、短辺120mの菱形で、可動席を含めて約12,000席で代々木の競技場と良く似た大きさであり、屋根トラスはNSトラスが使われている。この建物の最大の特徴は、川口先生のパンタドームによる施工方法であり、150tジャッキ24個を使い20m上げたそう。

全体的に見て貿易都市であるせいか、日本の関係した建物を主として見て来たせいか、それとも国内だけでは対応しきれないせいか、国際的雰囲気や建設が行われているのが日本と大きく違う所だと感じた。

海外研修報告 (2)

京都大学金多潔先生を団長とし、他24名がJSCA関西海外研修会“マレーシア・シンガポール”への5泊6日の旅行に出発したのは平成元年10月30日でした。マレーシア(クアラルンプール)・シンガポールでは、両国の建築家との懇談、及び建築物の見学で今から思いますと、あつと言う間に現地での時間が過ぎた事が思い出されます。東南アジアの旧所名跡等はテレビ・雑誌等で紹介されたのを見た事が有りますが、近代建築が此程迄に進んでいるとは現地を見る迄思いもよりませんでした。又、日本の資本がホテル、百貨店に、日本のゼネコンが高層ビル他の建設に数多く携わっているのを知

り、アジアに於ける日本の置かれている立場が象徴されていると思われま

す。私が勤務している会社はプレストレスコンクリートの専門業者で、特にシンガポールの新しい建物にはプレストレスコンクリートが梁・スラブに数多く用いられ現地建物の見学の際、PCの話しが出るとクーラーの所で涼んでいる私に“PCの話しやで”で竹中工務店の俣野さんによく注意を促され英語での説明なので英会話が出来ない事を此程後悔した事はありませんでした。

海外旅行の初めての私は研修旅行と言うより観光旅行の方が先き立ち、ガイドの説明を聞くよりギャルに目を奪われ、

近藤 正広(オリエンタルコンクリート) 両国での建築物の名前は殆んど忘れましたが、40階建以上のビルが数多く、地震のない両国なので日本では考えられない位、梁・柱の断面が小さくもし地震があると、昨年サンフランシスコ地震のような惨事がおこるのではと心配させられる思いです。

旅行中、税関・ホテル・免税店と足手まといの私を助けて下さいました特に俣野さんと川村建築構造川村所長には感謝しております。今考えますと“サンキュー・イクスキュズミー・デスクラウド”の言葉で一週間を過ぎた事がなつかしく思われます。



●支部の動き

- 10/30~11/4 海外研修会 (マレーシア、シンガポール) 現地のエンジニアの団体との交流および最近の高層建築視察 参加者25名
- 12/13 アンケート調査委員会
- 12/26 海外研修報告会
- 1/13 広報委員会
- 2/14 支部役員会
- 技術委員会分科会
鉄骨分科会-11/17
PC・プレファブ分科会-11/14、12/4
1/12
基礎分科会-6/6、8/2、10/4
12/4
コンピュータ分科会-10/27、12/6
1/18
RC分科会-8/9 (PCと合同で開催)
- 10/26 定例研究会「コンクリート建築構造物の工業化の現状と将来」RC分科会主催 参加者70名
- 11/18 囲碁親睦会 於「爛柯」15名
- 11/21 ゴルフ親睦会 於伏尾G. C 参加者41名
- 11/29 シンポジウム協賛「設計用入力地震動と地震応答解析」主催建築学会近畿支部耐震構造研究部会
- 12/25 報告会共催「ロマ・プリータ地震報告」主催大阪建築士事務所協会
- 1/4 存阪建築関連9団体新年交礼会 於大阪コクサイホテル 600名

●事務局よりのお知らせ

技術委員会では現在、鉄骨、基礎、RC、PC・プレファブ、コンピュータ、耐震設計の6分科会に耐久性、工業化構法 (これまでではコンピュータ分科会、PCプレファブ分科会に各々含めていた)、木構造、構造計画の4分科会を加え合計10分科会に拡大しようとしています。木構造、構造計画については新しい構造空間の研究・創造に意欲的なメンバーが集まり、自由な雰囲気でもまず勉強を始めようと準備会も開催されています。会員の皆様、奮ってご参加下さい。

連絡先は木構造、木林氏 (竹中工務店設計部06-252-1201)、構造計画は八木氏 (大林組建築設計第六部06-946-

定例研究会の報告

RC分科会主査 須賀好富

表記定例研究会が「コンクリート建築構造物の工業化の現状と将来」という演題のもとに平成元年10月26日(休)に北沢ビジネス会館において催されたが、当日の出席者は約60名で大盛況であった。その時のプログラムを下記に示す。

- 工業化生産の現状
京都大学助教授 古阪秀三先生 (工学博士)
- 大安つけもの工場の設計と施工
㈱黒沢建設 取締役
設計部長 田辺恵三氏
- 呉そごう百貨店の例
大成建設㈱ 広島支店
建築部設計課長 岸 晁 氏
- 合成床版の現状とコスト
㈱竹中工務店 大阪本店
構造課長 福山国夫氏

まず、古阪先生は建築経済の御専門の立場から、総論として、工業化生産の現状について述べられた。先生は構造を専門とされていないが、躯体の工業化に興味を持たれているので、フローアからの質問にも心よく応じて頂いた。

次に田辺氏はプレキャストプレストレストコンクリート組立工法の実例として大安京つけもの工場の設計と施工について紹介された。延10,895㎡で3階建の漬物工場が55日間 (躯体施工) で施工されたとのこと。柱・はり

による圧着接合 (図-1)、床には合成床版が用いられている。

次に実例として呉そごう百貨店が岸氏によって示された。この建物は柱及び耐力壁は現場打コンクリートで、大はり及び小はり

はスラブ下端まで部分PC化した部材を使用し、はり上端、スラブ及び柱・はり接合部は現場でコンクリートを打ち込むことにより骨組を一体化する工法で合理的なものとなっている。施工は大成建設の「RC積層工法」によってなされている。

最後に福山氏によってハーフプレキャスト合成床版について、各社から出されている製品の紹介とそのコストについて説明があった。コストは大阪市内の地上5階、延2,000㎡程度のものについて製品費 (製造、運搬など)、コンクリート、鉄筋、その他に分けて説明があり、当日の出席者から多くの質問があった。将来、現場労務の削減効果から愛用されることだろう。

以上、コンクリート系構造物は何らかの形で「工業化」への道を歩むと想定されるが、その案内の第一歩となったと考えられる。会場からのたくさんの質問はこの工法に対する期待の大きさを示すものであろう。当日の講師の皆さん方に篤く御礼申し上げたい。

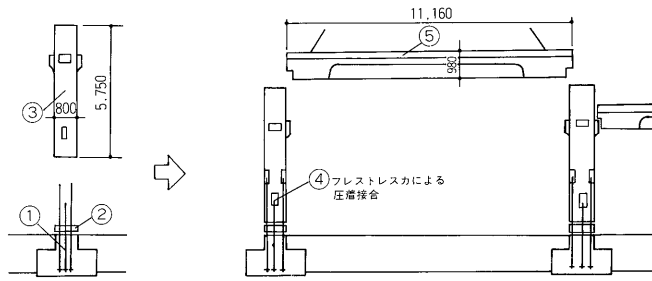


図-1 大安つけもの工場の圧着接合

4690) です。

- 平成2年度支部総会を4月26日(休)午後から建設交流館で開催、併せて5時30分より懇親会を予定しています。
- 過日実施しましたアンケートにご協力ありがとうございました。結果は後日本誌上で報告させていただきます。(ま)

編集後記

日本建築構造技術者協会となって初めての新年号発行となりました。今回から、中断しておりました会員紹介を再開します。まだ投稿されていない方は、事務局より追って依頼しますので御協力の程宜しくをお願いします。

(丸岡・岡本担当)

●会員紹介

前田利広

- 勤 ㈱大林組本店建築設計第五部
趣 海釣り、ハイキング



入社後、名古屋を振り出しに、岐阜・東京と渡り歩き、今は大阪に落ち着いております。この間、岐阜・柳ヶ瀬の現場で過ごした1年半はいろいろな意味で勉強になりました。現在は基礎・地盤関係に興味を持っています。できれば基礎分科会に入会させていただき、その活動を通じて見識を広めたいと思っています。

入江 豊

- 勤 ISD設計事務所
趣 映画・読書



学生時代はよく映画館に通いましたが、今は2月に1度ぐらいがやっとです。代りにもっぱらビデオに頼っています。しかし、その迫力は比べるまでもありません。映画はTVと違い、そのワンカットに多くの時間をさいて制作されます。構造設計もなるべく時間をかけ、いろんな角度で検討したいと考えています。

木田幸夫

- 勤 木田建築事務所
趣 ゴルフ、囲碁



本協会は宿願の社団法人となり、まことにおめでたいこと御同慶のいたりです。

本協会とは構造家懇談会として発足したときからのおつきあいですが、大林組退職とともに大阪へ帰って参り、事務所を始めました。関西の皆様とはお久しぶりですが、どうかよろしくお願ひいたします。

国本正男

- 勤 ㈱能勢建築構造研究所
趣 ゴルフ、スポーツ観戦



大学卒業以来、構造専門事務所にて建築構造とつき合って12年が流れました。電算化が進む中、ともしれば数値遊びに終始している私にとって、新たな刺激となれば儲け物というのが入会の動機です。

事務所内での座業が主なので、外部の方とも広く交わってみたいと思います。

小田義功

- 勤 株式会社ダイフク
趣 つい最近始めたゴルフ



Structureを見るたびに、構造界の進歩及び技術革新の早さに関心する次第ですが、私の携わっている仕事は立体自動倉庫の設計が主であり、協会では取扱われている構造の世界とは一風変わっていますが、各種の実験を行ないながらその安全性の検討を行ない、毎日鉄骨とのニラメッコをしています。

東郷 武

- 勤 大和ハウス工業㈱
趣 ゴルフ、囲碁



現役の構造屋を離れて十数年、今では何屋さんかわからなくなりましたが、それでもOKという矢野さんのお話で2年程前に入会しました。

色々な催しにも参加出来ない事が多いのですが、私のBASEは構造であり、JSCAの発展を蔭ながら応援させていただきたいと思っています。

岡田充弘

- 勤 NTT関西建築総合センター
趣 テニス、野球、ゴルフ



NTT入社以来東京に居ましたが、この2月に10年ぶりに戻ってきました。これまで電話局や鉄塔、IBビル等の設計を中心に担当してきました。現在は当センタ実施の構造関連業務を、微力ながら総括しています。色々な機会をとらえて技術の向上を計りたいと考えていますのでよろしくお願ひします。

日下部 弘

- 勤 鹿島建設大阪支店
建築設計部



生まれも、育ちも、仕事も大阪。大阪の街を、建築を、こよなく愛しています。入会后、鉄骨分科会やゴルフコンペに参加させて頂いています。趣味は洋蘭栽培の真似事。かたくなに故郷の風土にこだわる姿を見ていると、欧米の近代建築を日本に同化させた先達の偉業がしのばれます。よろしくお願ひします。

森本 修

- 勤 ㈱竹中工務店情報センター
趣 旅行、山歩き、読書



構造設計の実務経験は、僅か1年だった。丁度入社当時コンピュータが実用化されつつあったところで、それ以来コンピュータ部門で構造設計に係るプログラムの作成に従事している。設計者に喜ばれるプログラム作りは難しい。JSCA入会を機に「Structure」を糧に、より使いやすいプログラムづくりを目指したい。

岡本森廣

- 勤 全日本コンサルタント㈱技術部
趣 エッセイスト、ゴルフ



近鉄のコンサルタントで鉄道に係る構造が私のジャンルである。日本の地下鉄の全んどに携わり、まともな建築に接する事が少ないが、この分野では誰にも負けないと自負している。又、近鉄の橋上駅の殆どを手掛け、動荷重による振動特性とその解決には苦勞している。協会に入り会の為に頑張れる事が楽しみです。

関 雄作

- 勤 関建築資材研究所
趣 魚釣



スパーサーを作って18年。

大病を患ったのを機に一線を退き2年ばかり落ち込んでいましたが、今般当会で研究の場を与えられたので、もう一丁やる気を出し、余熱を完燃させて、一つでもお役に立つものができればと取り組んでいる毎日です。

年寄りの一年生です。よろしく。

山中靖男

- 勤 ㈱構造システム大阪支社
趣 囲碁、将棋



現在、構造システム大阪支社において構造設計のかたわら、構造関係のソフトについてのユーザーの方々の電話等による回答にもあたっております。立場上、さまざまな質問を受け、構造についての多くの考え方にも接し、時には戸惑うこともございますが、また他面色々と勉強もさせて頂いております。

日本建築構造技術者協会の設立に伴い、当関西支部においても、約120名の新会員を迎え、現在多くの方の会員紹介の原稿をいただいております。本号より順次紹介させていただきますが、紙面の都合上掲載が遅れる場合は、御容赦下さい。

発行(社)日本建築構造技術者協会関西支部事務局
川崎建築構造研究所 TEL 06-231-3112